Japanese Rally Championship Guide 2024

全日本ラリー選手権 観戦ガイド 2024

Contents

全日本ラリー選手権の基礎知識

全8戦の見どころや特徴を網羅
全日本ラリーイベントインフォメーション

選手名鑑／2023年 ポイントランキング

JRCA活動報告&入会案内／特別寄稿 参議院議員 松村 祥史

JAF加盟団体
JRCA
制作・発行：ジェイアールシーエー
2024年3月発行

参議院議員
松村祥史 まつむらよしふみ

国家公安委員会委員長／内閣府特命担当大臣(防災、海洋政策)
国土強靱化担当／領土問題担当

全国のラリーファンの皆様へ

はじめに、令和６年１月１日に発生した石川県能登半島を震源とする大規模な地震により、犠牲となられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々、関係者の方々にお見舞い申し上げます。

また、選手ならびに関係者の皆様におかれましては、2024年も全日本ラリー選手権が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。皆様には、平素より交通安全、交通事故防止、道路交通秩序の維持へご理解ご協力をいただいておりますことを感謝いたします。

全日本ラリーは、日本自動車連盟の公認競技会として全国各地で開催され、主催者をはじめ、選手、チーム、開催地域の地方自治体、地元企業、住民、警察や消防などが一体となり、多くの関係者やラリーファンをその地に招き入れることで、地域の活性化、地域振興、町おこしなどに貢献しているとお聞きしております。

道路交通環境の整備、交通安全思想の普及徹底、安全運転の確保、車両の安全性の確保、道路交通秩序の維持、救助・救急体制等の整備等により、交通事故発生件数および交通事故負傷者数は減少傾向にあり、これは自動車の進歩、運転者の意識向上、先端技術を活用した交通安全対策、行政・警察・学校による啓蒙活動など、多くの方々の継続的な努力の賜物であると思っております。

しかし、妨害運転（あおり運転）や飲酒運転など悪質・危険な運転による重大な交通事故も依然として後を絶たないほか、昨年は８年ぶりに交通事故死者数が増加に転じる等、交通事故を取り巻く情勢は憂慮すべき状況となっており、安全で快適な交通社会を実現するために、今後、さらなる努力をもって取り組んでいかなければなりません。

皆様には、ラリーというモータースポーツを通して、より多くの方々の模範となるような交通安全意識、交通ルール遵守、交通安全マナーを広く普及・啓蒙していただくとともに、地域経済にも良い影響を与え続けてくださることを願っております。

最後になりましたが、2024年の全日本ラリー選手権の成功と、選手ならびに関係者の皆様が安全な一年を過ごせるよう祈念いたします。

JRCA

JRCAから皆様へ

JRCA会長
新井敏弘 あらいとしひろ

JRCAから皆様へ

令和６年元日に発生した能登半島地震により亡くなられた方々に、心からお悔やみを申し上げるとともに被災されたすべての方々にお見舞い申し上げます。

平素よりJAF加盟団体ジェイアールシーエー（JRCA）の活動に、ご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。当団体は、国内ラリーの振興と発展、認知向上を目的に、選手、主催者、メディアが一体となって活動をしている団体です。これまでも、選手やメディア、ファンからの様々な意見をもとに、JAFや主催者と連携し、競技規則やルールの改定、救急体制の充実化、トラッキングシステムや技術アドバイザー導入の奨励活動といった事柄に関与し、また、動画配信や速報配信、ガイドブックの作成といった広報活動も継続的に実施してまいりました。

これもひとえに、全日本ラリーの主催者をはじめ、開催地域の自治体と住民の方々、協賛企業各社、参加チームや選手、ファンの方々など、国内ラリーに関わるすべての皆様のご尽力の賜物と思い、感謝申し上げます。

近年、国内では、トヨタ自動車のWRC（世界ラリー選手権）での活躍や、12年ぶりに復活を遂げ2022年から豊田スタジアムを拠点に愛知・岐阜エリアで開催されているWRCラリージャパンの影響などにより、各種メディアやSNS等でラリーが取り上げられる機会も以前より増え、ラリーというモータースポーツ競技に興味をもってくださる方々が少しずつ増えてきているといった状況です。今シーズンは全日本ラリーにも、JN-1クラスにTOYOTA GR Yaris Rally2やSKODA FABIA Rally2、CITROEN C3 Rally2など世界基準のラリーカーも多数出場します。ファンの皆様には、是非ともラリー会場に足を運んでいただき迫力のある走りを生でご覧いただければと思います。また、JN-2クラスでは、若手選手主体のカテゴリーが新たにスタートしますし、その他のクラスでもTOYOTA、SUBARU、SUZUKI、MAZDA、HONDA、MITSUBISHI、NISSANなど、国内メーカーの様々なマシンが参戦予定となっております。選手にとっても、ファンにとってもより魅力的な選手権になるものと期待しております。

JRCAでは、今後も選手、チーム、ファン、主催者、開催地域の自治体、行政など、多くの方々、団体と連携し、他のスポーツ同様、新たな競技人口およびファンの獲得、若い世代の選手の育成、ラリー競技の振興・発展・存続などに関与し続けていきたいと思っております。選手にとってもファンの皆様にとっても、ラリーがより魅力的なモータースポーツとして、地域社会に貢献し続けていけるよう、また、ひとつのスポーツ文化として成長していけるよう努力してまいりますので何卒よろしくお願いいたします。

全日本ラリー選手権の

基礎知識

日本全国の様々な道を舞台に開催される国内最高峰のラリー競技

ラリーは公道を舞台としたモータースポーツです
その国内最高峰シリーズが、全日本ラリー選手権です
その魅力と楽しみ方について紹介していきましょう

ラリーってどんな競技？

ラリーとは、複数の競技区間＝スペシャルステージ（SS）を１台ずつタイムアタックし、その合計タイムで勝敗を競うモータースポーツです。競技区間であるSSは、一般の交通を遮断し、閉鎖された環境で行われますが、SSとSSの間をつなぐ移動区間（ロードセクション／リエゾン）は、一般道を使って一般車と同じように交通法規を守って移動していきます。

全日本ラリー選手権は、国内におけるラリー競技の最高峰。基本的に土曜日と日曜日の２日間で行われ（一部の大会では金曜日にもイベントやSSを実施する場合もあります）、多いところでは２日間で15カ所にもおよぶSSを順番に走行して勝敗を決します。ひとつのラリーにおけるSS総走行距離は50～100㎞以上、移動区間も含めたラリー全体での総走行距離は約300㎞～1000㎞近くまで、大会の規模によって様々です。開催地域ごとに環境や路面、設定された走行距離が異なる点も、ラリーならではの特徴と言えるでしょう。

路面は舗装路（ターマック）や未舗装路（グラベル）、雪や氷の路面（アイス・スノー）で争われるものなど様々な種類があり、路面に合わせた車両のセットアップやタイヤ選択も勝敗を分ける重要な要素です。特にグラベルやアイス・スノーなどの場合は、天候や前走車の走り方で路面状況が変化していくため、選手はそれらを的確に判断しながら最速タイムを目指します。

なお、競技中の安全を確保するため、全日本ラリー選手権では「レッキ」と呼ばれる事前試走を各ステージあたり２回ずつ実施し、クルーはコースの形状や特徴を示す「ペースノート」を作成します。本番の走行では、助手席のコ・ドライバーがペースノートを読み上げ、それを頼りにタイムアタックを行います。

なお、全日本ラリー選手権に出場するためには、JAFの競技ライセンス（国内Bライセンス以上）が必要です。世界ラリー選手権（WRC）をはじめとする国際格式ラリーでは、国際ライセンスが原則として必要となります。

車両区分は全６クラス

全日本ラリー選手権は、駆動方式や排気量などによって全部で６つのクラスに分けられています。これにより、同じクラス同士での見応えある戦いと、バラエティに富んだ車種の出場を実現しています。

最上位クラスとなるJN-1クラスには、トヨタGRヤリス・ラリー２やシュコダ・ファビア・ラリー２ EvoなどFIA規定のラリー専用車のほか、ASN公認車両のAP4車両、JAF公認車両のJP4車両が参戦可能で、JP4車両はFIAのRally2公認規則に準じて製作された公認取得前の車両、または海外の自動車連盟などが規定するグループAP4に準じて製作された車両を指します。JN-2クラスは気筒容積が2500ccを超えるRJおよび気筒容積区別なしのRRN車両とされ、トヨタGRヤリスやスバルWRX STIなどのハイパフォーマンスカーが出場します。JN-3クラスは気筒容積が1500ccを超え、2500cc以下の後輪駆動車です。主力車種はGR86/BRZで、多くのエントラントが集う激戦区のひとつと言えます。

JN-4クラスは1500cc超～2500ccまでの前輪駆動と４輪駆動のRJ車両、RPN車両。スズキ・スイフトスポーツが主力車種となり、各ラウンドで接戦が繰り広げられます。JN-5クラスは、トヨタ・ヤリスやヴィッツ、マツダ・デミオなど1500cc以下の前輪駆動車が対象（AT車を含みます）。JN-6クラスは、1800cc以下のハイブリッド車や電気自動車などのAE車両クラスです。JN-5、JN-6とも身近なクルマたちがベース車両となり、車種が豊富で車両製作コストも安く抑えられるため、全日本ラリー選手権のなかでも参加しやすいクラスとして注目を集めていますが、ドライバーの高度なテクニックは必見です。

なお、今シーズンからJN-2クラスのサブカテゴリーとして、若手育成を目的とした「MORIZO Challenge Cup」が組み込まれます。車両はトヨタGRヤリスで、参戦コスト抑制とイコールコンディションを目的に改造範囲を限定するカップ独自の車両規定が設けられています。若手の奮闘にもぜひご注目ください。

該当車種　トヨタGRヤリス・ラリー2、シュコダ・ファビア・ラリー2 Evoなど

該当車種　トヨタ・アクア、ホンダ・フィット、ホンダCR-Zなど

国内のラリー車両の主な車両規定

JN-1	RRN車両を除くFIA公認車両、および国際モータースポーツ競技規則付則J項252条および253条の安全要件・一般事項等に基づくAP4などを含むASN公認車両または承認車両
JN-2	気筒容積が2500ccを超えるRJ車両および気筒容積区別なしのRRN車両
JN-3	気筒容積が1500ccを超え2500cc以下の後輪駆動のRJ車両、RPN車両
JN-4	気筒容積が1500ccを超え2500cc以下の前輪駆動および４輪駆動のRJ車両、RPN車両
JN-5	気筒容積が1500cc以下のRJ車両、RPN車両（AT車含む）
JN-6	駆動方式を問わず気筒容積が1800cc以下のAE車両

順位とチャンピオンの決め方は?

クラス別得点（係数早見表）

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
得点×1.0	20	15	12	10	8	6	4	3
得点×1.2	24	18	14.4	12	9.6	7.2	4.8	3.6
得点×1.5	30	22.5	18	15	12	9	6	4.5

得点係数

スペシャルステージの距離	ターマック	グラベル
50km～100km未満	1.0	1.2
100km以上	1.2	1.5

※やむを得ない理由により競技が短縮された場合において、それまでに終了したSSの総距離が30kmを超えており、かつ競技会審査委員会が適当と認めた場合、当該競技会は選手権として成立したものとし、係数0.8となる。

レグ別得点（※レグ２以降のみ）

レグ順位	1位	2位	3位
得点	３点	２点	１点

※レグポイントは、クラスごとにドライバー／コ・ドライバーに上記の点数が与えられる。レグ別得点には得点係数はかからない。

全日本ラリー選手権では、JN-1～JN-6までクラスごとに順位を定めています。順位は、各ラリーに設定されたSSをすべて走り切り、最もタイムの合計が少ない、つまり最も速く走ったクルーがクラス優勝を獲得します。

同時に、それぞれのラリーではクラス順位に応じて１位から８位までに得点が与えられ、その年のシリーズを終えた段階で有効得点の合計が最も高い選手がチャンピオンとなります。得点はクラス別に１位20点、２位15点、３位12点、４位10点、５位８点、６位６点、７位４点、８位３点が与えられ、この得点にラリーごとのSS総距離と路面に応じた得点係数がかけられます。さらにレグ２以降は、レグごとの上位３クルーにはレグ別得点が与えられます。

ただし、得点の合計は、選手権として成立した競技会が８戦以上の場合は高得点順に６戦の合計得点、７戦以下の場合は高得点順に５戦の合計得点が有効得点となります。

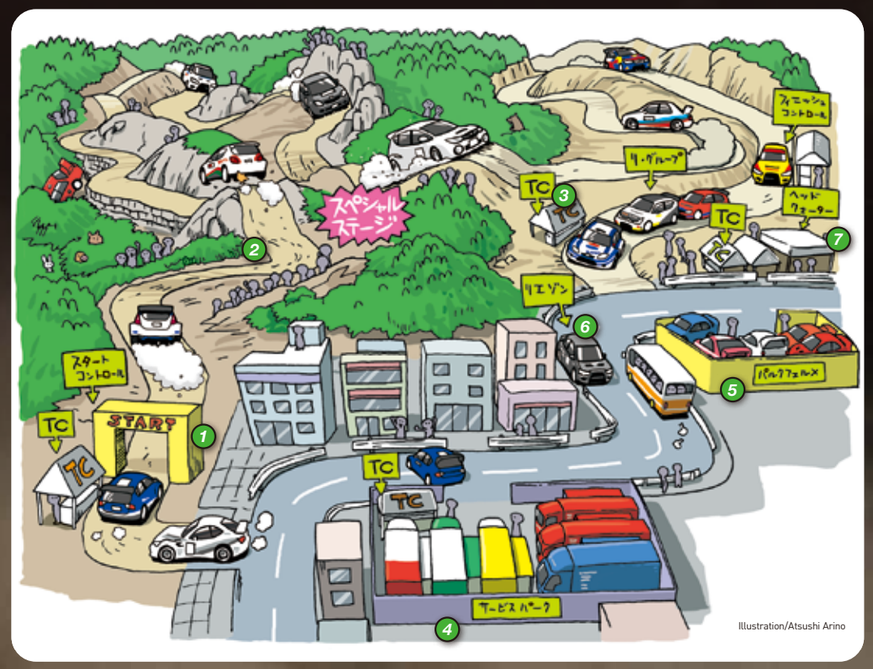
この選手権ポイントは、ラリー終了後にJRCAのホームページで公開されるほか、JAFのホームページにも詳しく掲載されています。

ラリーの流れはどんな感じ?

ラリーは一般公道を使用して開催されるモータースポーツです。そのため、様々な設備やエリアは、開催地周辺に競技期間中だけ設置される点が大きな特徴で、市町村などの自治体や行政機構と協力することでラリーは開催されています。

競技区間である「スペシャルステージ」は、スタートやフィニッシュ、途中の走行状況の確認や緊急時の対応、競技中に関係者以外がコースに入らないように監視する人員（オフィシャルと呼ばれます）が配置され、競技期間中は常に管理されています。ラリーカーの整備などを行う「サービスパーク」、大会事務局が置かれる「ヘッドクオーター（HQ）」、車両を一時的に保管するための「パルクフェルメ」などは、開催地周辺のホテルや公共施設、駐車場などに設置されます。

また、ラリーによっては、クルマに関係する企業ブースや地元グルメの模擬店などが集まる「ラリーパーク」が設置される大会もあり、週末を通じてお祭りのような雰囲気を楽しむことができます。観戦情報は各ラリー主催者の公式ウェブサイトに掲載されます。



Illustration/Atsushi Arino

1 スタート

多くのラリーでは式典としてセレモニアルスタートが実施され、選手が華々しくスタートしていく様子を間近で観ることができる人気イベントです。ラリーによっては選手とハイタッチできるところも。ぜひ熱い応援を届けてください。

2 スペシャルステージ

スペシャルステージ（SS）は全開のタイムアタック区間です。ドライバーたちのテクニックを堪能しましょう。SSタイムはスタート地点とフィニッシュ地点に設置された光電管で計測し、10分の1秒単位で順位が決まっていきます。

3 タイムコントロール

ラリー競技では、SSの走行時間以外のあらゆる行動が選手ごとに分単位で決められています。それをチェックするのが各所に設置されたタイムコントロール（TC）です。選手はすべてのTCを必ず通過する必要があります。

4 サービスパーク

車両の修復やセッティングの変更を行う場所がサービスパークです。熟練メカニックの手際は必見。見学にはチケットが必要なラリーもありますので観戦情報をチェックしましょう。また、移動する車両など周囲に気をつけて見学しましょう。

5 パルクフェルメ

“車両の整備等が禁止されている場所”ですが、ほとんどの場合はラリーカーを保管しておく場所を指します。１日の終わりのほか、競技進行の時間調整、車列調整のために設けられます。この時間調整は“リグループ”と呼ばれ、多くの場合はサービスの前後に設定されます。

6 リエゾン

SSとSSをつなぐ移動区間はリエゾン（ロードセクション）と呼ばれ、ラリーカーは一般道を交通法規を守って移動します。マイカーで観戦している場合には、ラリーカーとすれ違ったりすることも。沿道で応援する場合は、周囲の交通などにも配慮し、十分安全な場所で行いましょう。

7 ヘッドクオーター

競技全体を運営・管理する本部のことをヘッドクオーター（HQ）といいます。会場近隣のホテルや公共施設に設置されることが多く、報道関係者の仕事場であるメディアセンター、通達やリザルトが掲示される公式掲示板などが設置されます。ラリーによっては観戦の受付も行います。

全日本ラリー選手権の
基礎知識
日本全国の様々な道を舞台に開催される国内最高峰のラリー競技

ラリーカーってどんなクルマ?

スペシャルステージで0.1秒を争う選手たちのラリーカーは、世界自動車連盟(FIA)や日本自動車連盟(JAF)の定める車両規定に則って製作されています。規定の範囲内において、安全かつ速く走るためのチューニングや車両セッティングが行われており、まさに各チームのノウハウが詰め込まれた1台と言えるでしょう。

SSでのタイムアタックでは車両に大きな負荷がかかるため、操縦安定性を確保する強靭なサスペンションや、エンジン・トランスミッションなどを守るアンダーガード等が装着されます。そしてクラッシュなどが発生した際に乗員を守るロールケージや多点式シートベルト、消火器など様々な安全装備が義務づけられています。

1 エンジン

2 サスペンション

国内ラリー車両の主な車両規定

FIA公認車両	ラリーに出場するための臨時運行許可を有するFIAによりグループA、R、N(公認有効期限後8年を経過していない車両を含む)として公認された車両。
ASN公認車両	ラリーに出場するための臨時運行許可を有するFIAグループRally2と同等に近い性能の車両を作ることを目的とした海外のASNによって公認された車両。
JAF公認車両	ラリーに出場するための臨時運行許可を有するFIAのRally2公認規定に準じて製作された公認取得前の車両、または海外ASNが規定するグループAP4に準じて製作されたJAFによって公認されたJP4車両。
RRN車両	FIAによりグループA、R、N(公認有効期限後8年を経過していない車両を含む)として公認された車両で、保安基準に適合し、本編に従った自動車登録番号標(車両番号標)を有する車両。
RJ車両	JAF登録車両で、国内ラリー参戦車両としては改造範囲が広いもの。
RPN車両	JAF登録車両で、メーカーラインオフ時の諸元が変更されていないもの。改造範囲はRJ車両よりも狭い範囲に規定されている。
AE車両	電気モーター、または電気モーターとエンジンを併用して動力とする車両。改造範囲はRPN車両と同じく狭い範囲に規定されている。

スペシャルステージの観戦に必要なものは?

ラリー観戦では、SSの観戦エリアまでの移動、ラリーパークのイベントやサービスパークの見学など、長い距離を歩くことがあります。そのため、歩きやすい靴や服装を身につけましょう。また、雨具や日焼け止め、サングラスなども持参した方がよいグッズとして挙げられます。

特に観戦エリアは山間部となる場合も多いので、気温や天候の急な変化にも対応できるようにしておきたいところです。雨天の観戦の場合、傘は他の観客の邪魔になったり飛ばされるリスクもあるのでなるべく使用せず、ポンチョやレインウェアなどを持参することをおすすめします。そのほか、携帯できる折りたたみ椅子やレジャーシートなども、持っていくと便利なグッズのひとつ。季節によっては虫刺され対策の薬なども用意できると、さらに安心です。

また、観戦エリアによってはすべての車両が走り終わるまで移動することができないなど、長い時間を過ごすことになりますので、飲料水など事前の準備もお忘れなく。

セレモニアルスタート&フィニッシュ、サービスパーク、スペシャルステージ、リエゾンなど、自分で様々な楽しみ方のプランを立てることができるのも、ラリーの魅力のひとつです。しっかりと事前の観戦計画を練ってラリーを楽しみましょう。

各主催者の最新情報はJRCAのウェブサイトからチェック!

JRCAのウェブサイトでは、全日本ラリー選手権の各主催者ウェブサイトへのリンクやイベントガイド、ラリー終了後にはレポートなど、様々な情報を提供しています。ぜひ右のリンクからアクセスしてみてください。

https://www.jrca.gr.jp

全日本ラリー選手権の
基礎知識
日本全国の様々な道を舞台に開催される国内最高峰のラリー競技

Event Guide 2024

新たにラリー三河湾が追加 日本各地を舞台に8戦を開催

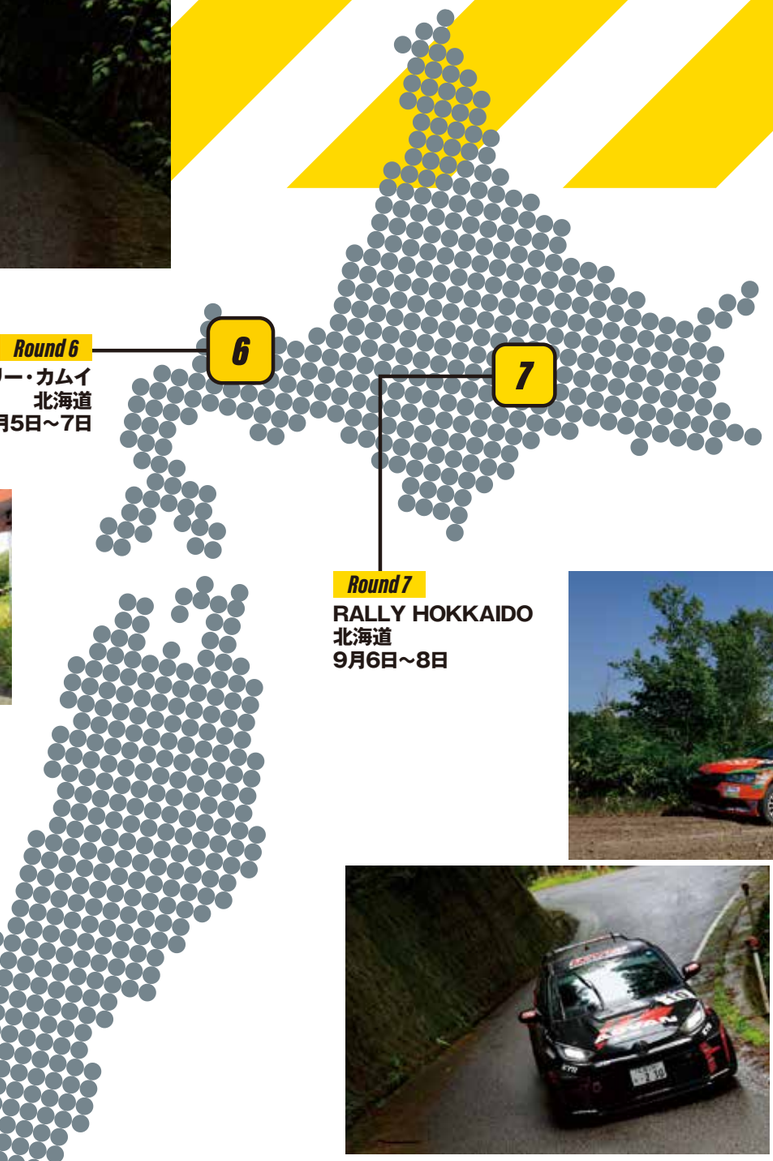
日本最高峰のラリー競技である全日本ラリー選手権は、その名のとおり北は北海道、南は九州まで全国で開催されており、2024年は３月から10月にかけて全８戦が行われます。戦いの舞台は、それぞれの開催地ごとに特徴をもったスペシャルステージで、たとえば同じターマックラリーであっても、地方によってスムーズな路面、タイヤへの攻撃性が高い路面など様々な性格を持っているほか、グラベルラリーであれば１台ごとに路面状況は変わっていきます。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり無観客での開催となるケースもありましたが、ファンに楽しんでもらうためにSSのライブ配信など、新たな取り組みを行う主催者も増えているほか、現地で観戦できるラリーも再び増えてきました。

次頁からのイベントガイドには、各主催者の公式ウェブサイト（QRコード）も掲載しています。ぜひ最新情報をチェックして、ラリー観戦や周辺地域の観光などを楽しんでください。

2024年全日本ラリー選手権カレンダー

Rd	開催日	イベント名	場所	路面
1	3/1-3	Rally三河湾2024 Supported by AICELLO	愛知県	ターマック
2	4/12-14	ツール・ド・九州2024 in 唐津	佐賀県	ターマック
3	4/26-28	久万高原ラリー	愛媛県	ターマック
4	5/10-12	YUHO RALLY TANGO supported by Nissin Mfg	京都府	ターマック
5	6/7-9	MONTRE 2024	群馬県	ターマック
6	7/5-7	2024 ARK ラリー・カムイ	北海道	グラベル
7	9/6-8	RALLY HOKKAIDO	北海道	グラベル
8	10/18-20	第51回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ2024 supported by KYB	岐阜県	ターマック



Round 1 ［愛知県］

Rally三河湾2024 Supported by AICELLO

開催期間 3月1日～3日　*https://rally-mikawawan.com*

●SS路面:ターマック　●総走行距離:253.06km　●主催者:モンテカルロオートスポーツクラブ

愛知県で開催されるまったく新しいターマックラリー

今シーズンの全日本ラリー選手権開幕戦となるラリー三河湾は、これまで同じ愛知県の新城市を拠点として開催されていた新城ラリーを引き継ぐかたちで蒲郡市に拠点を移し、まったく新しいエリアに設定された初開催の大会です。周辺の岡崎市・豊川市・幸田町を含む山間部が競技の舞台となるほか、徒歩でアクセスできる竹島エリア、スパ西浦モーターパークを使用したSSなど、バラエティに富んでいます。

メイン会場となるラグーナエリアにはサービスパークのほか、イベント広場、飲食ブースなどが設けられており、サービスパーク近隣の『SSS KIZUNA』ではデモンストレーションランも開催されます。

アクセス情報

クルマの場合、東名高速道路豊川ICから約35分、または音羽蒲郡ICから約30分でメイン会場となるラグーナエリアにアクセスすることが可能です。鉄道であれば、JR東海道本線の三河大塚駅からも徒歩で10～15分。また、ラリー期間中はJR蒲郡駅南口からメイン会場に往復シャトルバスが運行されます。

開催地はこんなところ

観光スポット多数。温泉と海産物を楽しめる

ラリーの拠点は、愛知県で最も規模の大きいヨットやクルーザーのマリーナに立地し、有名なテーマパーク「ラグーナテンボス」に隣接しており、商業施設である「フェスティバルマーケット」では美味しい海産物など、ご家族連れも終日楽しむことができます。愛知県蒲郡市は、明治時代から風光明媚な三河湾を中心とした愛知県で最も規模の大きい観光地群で、市内に西浦温泉、形原温泉、蒲郡温泉、三谷温泉と４つの温泉地を中心に多くの観光スポットが存在します。

Round 2 ［佐賀県］

ツール・ド・九州2024 in 唐津

開催期間 4月12日～14日　*https://gravelmotorsportsclub.com/*

●SS路面:ターマック　●総走行距離:332km　●主催者:グラベルモータースポーツクラブ

タイヤマネージメントが勝敗のカギ。新たなSSも登場

今年はエリア内で今まで使ったことのない新たなステージを使用するなど、新機軸を投入するツール・ド・九州in唐津。タイヤへの攻撃性が高い路面が多いため、タイヤマネージメントが勝敗を分ける展開となる可能性が高いと言えます。

ラリーの拠点となるヘッドクオーターとサービスパークは、唐津市郊外の「ボートレースからつ」内に設置。ギャラリーステージは競技２日目の４月14日（日）、SS9/11 AZAMENOSE（4.17㎞）に設けられる予定です。観戦情報について詳しくは大会公式HP・SNSをご覧ください。

アクセス情報

クルマの場合、福岡市内からは福岡高速道を通り、福岡前原道路を経由、唐津道路の唐津ICまでが約60分。佐賀市内からは国道203号線を経由し、厳木多久有料道路で約60分。鉄道なら、福岡方面からは福岡市営地下鉄空港線～JR筑肥線「東唐津駅」下車。メイン会場であるボートレースからつまではクルマで約５分。

開催地はこんなところ

ランドマークは玄界灘を一望できる唐津城

玄界灘に面し、山と海岸線が織りなす風景のほか、美味しいグルメも楽しめる唐津市。玄界灘で水揚げされたイカの「活き作り」は、透きとおった身の美しさと甘さが魅力。口の中で動き回るゲソの感触も、ぜひご堪能ください。また、呼子名物のイカバーガーや、唐津名物のからつバーガーといった鉄板B級グルメも人気。そのほか唐津城など歴史遺産のほか、見帰りの滝、鏡山、虹の松原などSNS映えするポイントも多いので、ぜひ足を運んでみてください。

Round 3 ［愛媛県］

久万高原ラリー

開催期間 4月26日～28日 *http://www2.odn.ne.jp/mac/*

●SS路面:ターマック ●総走行距離:約285km ●主催者:松山オートクラブ

5年ぶりにハイランドパークみかわの観戦エリアが復活

これまで、グラベルラリーとターマックラリーを交互に開催してきた久万高原ラリーですが、2019年以降はターマックラリーとして開催。今年も、20kmを超える深い森の中を駆け抜ける美川ステージは健在。WRCを彷彿とさせるロングステージは選手たちにとってもチャレンジングなステージとなりそうです。SS総走行距離は100㎞を超え、シーズン序盤の大きな山場と言っていいでしょう。

今大会では開催日程がゴールデンウイーク前の週末となったほか、5年ぶりにハイランドパークみかわでのギャラリーステージが復活する予定となっています。

アクセス情報

HQやサービスパークが集約されるハイランドパークみかわ（旧名称・美川スポーツランド）までは、クルマの場合、松山自動車道の松山ICから国道33号線を使い、松山市街地から約90分。また、久万高原町の国道440号（33号）からサービスに向かう道中では競技車とすれ違う可能性があるため、注意が必要です。

開催地はこんなところ

四国カルストの自然美と名産品が魅力

愛媛県中央部に位置する久万高原町は、「四国の軽井沢」と呼ばれるほど大自然が広がる町です。平均標高が800mと高く、愛媛県で一番大きな面積を持つ町のほとんどが高原と森林に覆われています。日本三大カルストのひとつに数えられる景勝地、四国カルストを東西に貫く「四国カルスト公園縦断線」は、人気のドライブルートのひとつ。地元の名産品には、おこう饅頭、みかわソーメンがありますが、「道の駅 みかわ」のソフトクリームも人気があります。

Round 4 ［京都府］

YUHO RALLY TANGO supported by Nissin Mfg

開催期間 5月10日～12日 *http://rallytango.com*

●SS路面:ターマック ●総走行距離:約300km ●主催者:モータースポーツクラブシンフォニーオブ京都（共催）大阪電気通信大学体育会自動車部

丹後半島を南北に貫く丹後縦貫林道がSSの舞台

京都府京丹後市を拠点に、丹後半島を南北に縦断する延長約50kmの丹後縦貫林道が舞台となるラリーです。選手たちにとってはスムーズな路面のハイスピード区間を持つSSや、狭くテクニカルなワインディングのSSなど、チャレンジングなコースが多く、総SS距離100㎞を超える設定と相まって、攻め甲斐のあるラリーと言えるでしょう。

観戦エリアは5月10日（土）に林道ステージ内、11日（日）に森林公園スイス村内にそれぞれ設けられる予定です。また、豊かな自然環境や温泉、カニなどに代表される海産物など食のバラエティに富んでおり、観戦+観光を楽しめるラリーとしても人気が高い一戦です。

アクセス情報

サービスパークが設置される京都府丹後文化会館駐車場は、京都丹後鉄道宮豊線の峰山駅から徒歩5分ほどと交通至便。クルマでは、山陰近畿自動車道京丹後大宮ICから約20分。

開催地はこんなところ

風光明媚な丹後半島には観光スポットも点在

京丹後市には、独特の鮮やかな色彩を楽しめる夕日で知られる夕日ヶ浦温泉郷をはじめ、天橋立、琴引浜、伊根町船屋など、日本ならではの景観豊かな観光スポットが点在しています。山陰海岸国立公園を中心に京丹後市の東側から鳥取県にまたがる広大なエリアは、“山陰海岸ジオパーク”として世界ジオパークに認定されています。また、地元で獲れるズワイガニを代表とした海産物が人気で、ラリーが開催される5月上旬は、真鯛やハマチ、鯵、白イカなどが美味しい季節です。

Round 5 ［群馬県］

MONTRE 2024

開催期間 6月7日～9日　*https://rally-montre.com*

●SS路面:ターマック　●総走行距離:約620km　●主催者:特定非営利活動法人 M.O.S.C.O.

新たに安中市を拠点に開催、「聖地」碓氷峠に観戦エリアも

関東の全日本ラリー選手権ラウンドとして長い歴史を誇るモントレーは、2021年に初めて高崎市を拠点として、新生ターマックラリーとして開催されました。今年は22年以来の開催となりますが、拠点を安中市に移し、HQとサービスパークは、安中しんくみスポーツセンターに置かれます。また、FIAアジア・パシフィックラリー選手権（APRC）も併催されます。

ラリーは、前回（2022年大会）でも使用した群馬県南西部のステージに加え、アニメで有名な碓氷峠の旧道と、旧妙義有料道路の一部＋林道では、地元自治体との協力で観戦エリアも準備されています。

アクセス情報

サービスパークが設置される安中しんくみスポーツセンターへのクルマでのアクセスは、上信越道・富岡ICから13㎞ほど。電車では信越本線の安中駅が最寄り駅で、そこから約3.5kmです。

開催地はこんなところ

温泉と宿場町の歴史を感じさせるエリア

ホームタウンの安中市は、東は高崎市、西は長野県軽井沢町に接し、利便性の高いエリアとして知られています。「温泉マーク」の発祥の地とされる磯部温泉や、碓氷峠鉄道文化むら、峠の釜飯で有名な横川で知られています。また、中山道の街道上にあり、古くから交通の要所として栄えた歴史をもっている点も大きな特徴です。江戸時代には、板鼻・安中・松井田・坂本の宿場町が賑わいをみせ、中山道の重要な関所である碓氷関所も今の横川に設置されていました。

観光ぐんま写真館提供　https://gunma-kanko.jp/

Round 6 ［北海道］

2024 ARK ラリー・カムイ

開催期間 7月5日～7日　*https://www.team-ark.jp*

●SS路面:グラベル　●総走行距離:約450km　●主催者:アーク・オートクラブ・オブ・スポーツ

グラベル連戦の初戦は観戦エリアが増設

北海道の道央を舞台とする第6戦は、外国人観光客からの人気も高い北海道の観光名所・ニセコ町をホストタウンに開催。蘭越町やニセコ町、倶知安町、真狩村の林道が舞台となります。速度域が高く、路面コンディションが良好なステージは選手にも好評で、グラベルを得意とするドライバーが多く出場するイベントです。

ラリーの拠点となるヘッドクオーターとサービスパークは、ニセコ町のニセコアンヌプリ国際スキー場に設置。観戦エリアは、７月６日（土）と７日（日）の林道ステージにそれぞれ２カ所ずつと増設され、迫力ある走りがますます楽しめそうです。

アクセス情報

サービスパークが設定されるニセコアンヌプリ国際スキー場へのクルマでのアクセスは、新千歳空港からは道道16号線→国道276号線→国道5号線を経由して約２時間。札幌市内からは、国道230号線から中山峠を経由し国道276号線で約２時間が目安となります。

開催地はこんなところ

羊蹄山を望む絶景

冬には一面の雪に覆われるニセコも、ラリー開催時期は緑の絨毯に覆われ、避暑地としても人気があります。蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山は、7月から8月にかけて高山植物が花を咲かせ、130種類以上の野鳥が生息しています。大自然があふれるニセコにはトレッキング客が国内外から訪れます。SSが設けられる蘭越町は、ブランド米の「らんこし米」がイチオシ。ニセコ連峰から湧き出るミネラルを豊富に含んだお米は絶品で、日本酒や甘酒などの加工品にも力を入れています。

Round 7 [北海道]

RALLY HOKKAIDO

開催期間 9月6日～8日 http://www.rally-hokkaido.com/jp/

●SS路面:グラベル ●総走行距離:約700km ●主催者:AG.メンバーズスポーツクラブ北海道

国内最大規模のハイスピードグラベルラリー

長年FIAアジア・パシフィックラリー選手権（APRC）と併催されてきたラリー北海道は、今年で23回目の開催。2004年に日本で初となるWRCイベントが開催された十勝エリアが舞台で、平均時速100㎞/hを超えるステージもある高速グラベルラリーです。今年も、昨年登場した池田町の新しい観戦ステージを含め全12SS、SS総距離110㎞を予定しており、係数の高い一戦で白熱した争いが期待されます。

サービスパークは例年と同じく帯広市の北愛国交流広場に設置され、陸別サーキット、池田など4ステージで観戦エリアの設置が予定されています。

アクセス情報

サービスパークが設置され、ラリーの拠点となる札内川河川敷の北愛国交流広場までは、帯広駅からクルマで20分、とかち帯広空港からは同30分。観戦エリアが設置される陸別サーキットへは、道東自動車道・足寄ICから国道242号線を通り、約40分。

開催地はこんなところ

北海道の秋の味覚と人気スポットを満喫

北海道十勝地方は日本を代表する穀倉地帯です。主にジャガイモ、小麦、とうもろこし、小豆などが有名ですが、長芋や砂糖の原料となるてん菜、ごぼう、かぼちゃなどの栽培も盛んで、これらを使用した高品質なスイーツも各所で販売されています。また、レグ１の中心となる陸別町にある銀河の森天文台では昨年末にオーロラが観測されたほか、日本で唯一の公営競技として開催される「ばんえい競馬」や、レグ２で使用予定の池田町にある「いけだワイン城」なども人気のスポットです。

Round 8 [岐阜県]

第51回M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ2024 supported by KYB

開催期間 10月18日～20日 https://mcsc-rally.net/highland-masters/

●SS路面:ターマック ●総走行距離:約350km ●主催者:松本カースポーツクラブ（M.C.S.C.）

シーズンのファイナルを飾る伝統の一戦

歴史ある飛騨高山エリアで開催されるラリーハイランドマスターズは、選手権で最も伝統のある一戦。昨年は開催50回目を迎え、ラリー車が高山中心部の高山陣屋前などをリエゾンで通過し、話題を集めました。以前は「カーブレイクラリー」と呼ばれるほどのハードなグラベルラリーでしたが、近年はシリーズ最終戦のテクニカルなターマックラリーとして定着しており、各クラスで僅差のバトルが繰り広げられています。

今年も高山市の林道を中心に約90kmのSSが設定され、旧ひだ舟山スノーリゾートアルコピアのギャラリーステージも予定されています。

アクセス情報

岐阜県高山市までのアクセスは、中央自動車道・松本ICから国道158号線を経由しておよそ２時間。また、東海北陸自動車道の高山ICから約30分。サービスパークが設置される「モンデウス飛騨位山」と観戦ステージが設置される予定の「旧ひだ舟山スノーリゾートアルコピア」までは、いずれも高山市内からクルマで40分ほど。

開催地はこんなところ

江戸時代の街並みが残る「飛騨の小京都」

飛騨高山の旧高山市中心部は江戸時代以来の城下町・商家町の姿が保全されており、「飛騨の小京都」と呼ばれています。かつて商人の町として栄えたこの地域は、国選定重要伝統的建造物保存群地区に指定されており、江戸時代当時の街並みと雰囲気を味わうことができます。朝市や高山陣屋も人気のスポットで、飛騨牛、朴葉みそ、地酒、鶏ちゃん、高山ラーメンなどのグルメも豊富。また伝統工芸品の「一位一刀彫」もおススメです。

JRC Driver / Co-Driver Profile

［選手名鑑］ *各クラスの表記は2023年度の区分のもの

2023 Champions

JN-1 Class Driver
ヘイキ・コバライネン
Heikki KOVALAINEN フィンランド

2023年参戦車両▶シュコダ・ファビアR5
2023年ランキング▶JN-1クラスチャンピオン

2007年から13年までF1、15年から22年までSUPER GTで活躍。16年から全日本ラリーに参戦を開始し、21年にトヨタGT86 CS-R3でJN-2クラス王者に。22年と23年はシュコダ・ファビアR5でJN-1クラスを連覇する。今シーズンはGRヤリス・ラリー２でクラス３連覇を狙う。

JN-1 Class Co-Driver
北川紗衣
Sae KITAGAWA 北海道

2023年の主なドライバー▶ヘイキ・コバライネン
2023年ランキング▶JN-1クラスチャンピオン

2007年に全日本ラリーにデビューし、10年に当時のJN-1クラスでコ・ドライバータイトルを獲得。16年からヘイキ・コバライネンのコ・ドライバーを務め、21年にJN-2クラス王者、22年と23年には最高峰クラスのJN-1クラスで連覇を飾る。今シーズンもコバライネンとともに３連覇を狙う。

JN-2 Class Driver
奴田原文雄
Fumio NUTAHARA 北海道

2023年参戦車両▶トヨタGRヤリス
2023年ランキング▶JN-2クラスチャンピオン

全日本ラリーでのタイトル獲得は通算11回。1994年から2020年までADVAN-PIAAラリーチームのエースとして、最高峰クラスで９回チャンピオンに。21年から体制を一新し、GRヤリスで出場。23年は通算11回目のタイトルを獲得する。今シーズンはGRヤリス・ラリー２でJN-1クラスを戦う。

JN-2 Class Co-Driver
東駿吾
Shungo AZUMA 兵庫県

2023年の主なドライバー▶奴田原文雄
2023年ランキング▶JN-2クラスチャンピオン

2017年にラリーデビュー、19年に東日本ラリー選手権BC-4クラスでナビゲーター王者に。20年の全日本ラリーで小濱勇希のコ・ドライバーを務め、JN-5クラスで全日本初優勝を飾る。21年に奴田原文雄のコ・ドライバーに抜擢され、23年、自身初となる全日本タイトルを獲得した。

JN-3 Class Driver
山本悠太
Yuta YAMAMOTO 愛知県

2023年参戦車両▶トヨタGR86
2023年ランキング▶JN-3クラスチャンピオン

2013年、当時23歳という若さで全日本ダートトライアルのチャンピオンに。14年に連覇後、16年からラリーに転向し、全日本ラリー参戦２戦目でシリーズ初優勝を飾る。19年には全日本ラリーでもタイトルを獲得。23年は７戦に出場し、５勝という強さで２度目の王座を獲得した。

JN-3 Class Co-Driver
立久井和子
Kazuko TACHIKUI 東京都

2023年の主なドライバー▶山本悠太
2023年ランキング▶JN-3クラスチャンピオン

2003年に全日本ラリーにデビューした後、12年から全日本でのラリー活動を一時休止。20年に再び全日本に復帰し、21年から山本悠太のコ・ドライバーを務める。21年はJN-1クラス、22年はJN-3クラスに出場し、GR86で出場した23年は、自身初となる全日本チャンピオンに輝いた。

JN-4 Class Driver
内藤学武
Manabu NAITO 東京都

2023年参戦車両▶スズキ・スイフトスポーツ
2023年ランキング▶JN-4クラスチャンピオン

2014年から全日本ラリーにスポット参戦を始め、18年の開幕戦で全日本初優勝を飾りシーズン２勝を挙げる。自身２度目のシリーズ参戦に挑んだ23年は最終戦の逆転劇で、あらゆるシリーズを含め自身初となるタイトルを全日本で獲得した。今シーズンは、JN-4クラスで連覇を狙う。

JN-4 Class Co-Driver
大高徹也
Tetsuya OTAKA 埼玉県

2023年の主なドライバー▶内藤学武
2023年ランキング▶JN-4クラスチャンピオン

東日本ラリー選手権や群馬ラリーシリーズで活躍するベテランのコ・ドライバー。全日本ラリーには2000年の２輪駆動部門でデビュー、17年の第８戦で全日本初優勝を挙げる。23年から内藤学武とコンビを組み、シーズン３勝を挙げ全日本チャンピオンを獲得。今シーズンも内藤と連覇を狙う。

JN-5 Class Driver
松倉拓郎
Takurou MATSUKURA 北海道

2023年参戦車両▶トヨタ・ヤリス、マツダ・デミオ
2023年ランキング▶JN-5クラスチャンピオン

北海道のジムカーナやラリーで活躍後、2012年から全日本ラリーのグラベルラウンドを主体にスポット参戦を開始。23年はグラベルラリーをデミオ、ターマックラリーをヤリスの２台体制で挑み、自身初となる全日本タイトルを獲得した。今シーズンも引き続きJN-5クラスで連覇を狙う。

JN-5 Class Co-Driver
豊田耕司
Koji TOYOTA 栃木県

2023年の主なドライバー▶大倉聡
2023年ランキング▶JN-5クラスチャンピオン

2013年の第７戦で全日本デビュー、15年から大倉聡のコ・ドライバーとして本格的に全日本を転戦し、今年はコンビを組んで９年目のシーズンを迎える。19年に大倉とともにJN-6クラスで全日本初タイトルを獲得、今シーズンは、３年目となるGRヤリスRSでJN-5クラスのチャンピオンを狙う。

JN-6 Class Driver
天野智之
Tomoyuki AMANO 愛知県

2023年参戦車両▶トヨタ・アクア
2023年ランキング▶JN-6クラスチャンピオン

2003年に、当時の全日本ラリー２輪駆動部門Ａクラスで初めて全日本タイトルを獲得して以来、23年まで通算15回王者に。さらに23年までは10年連続タイトル獲得と、歴代の全日本ドライバーのなかでも最多＆最長記録を更新中だ。今シーズンもアクアでJN-6クラス連覇とともに記録更新を狙う。

JN-6 Class Co-Driver
井上裕紀子
Yukiko INOUE 愛知県

2023年の主なドライバー▶天野智之
2023年ランキング▶JN-6クラスチャンピオン

2000年に天野智之のコ・ドライバーとして全日本に初出場して以来、天野とともに全日本ラリーを戦う。23年はJN-6クラスに出場し、14年連続16回目となるタイトルを獲得。ドライバーとコ・ドライバーを含めて、シリーズ最多の連勝記録を達成する。今年も連覇と記録更新が期待される。

Top Competitors

JN-1 Class Driver
勝田範彦
Norihiko KATSUTA 愛知県

2023年参戦車両▶トヨタGRヤリスJP4-ラリー２
2023年ランキング▶JN-1クラス２位

1995年から2020年までスバル車で全日本ラリーを戦い、通算８回のタイトルを獲得。21年にトヨタ・ガズーレーシングに移籍し、GRヤリスでタイトル記録を通算９回に更新した。23年はGRヤリスJP4-ラリー２で参戦。今年はFIA公認を取得したGRヤリス・ラリー２で10回目のタイトルを狙う。

JN-1 Class Co-Driver
木村裕介
Yusuke KIMURA 大阪府

2023年の主なドライバー▶勝田範彦
2023年ランキング▶JN-1クラス２位

2001年の全日本ラリー２輪駆動部門で全日本デビュー。その後は多くのドライバーとコンビを組み、全日本を転戦。21年にトヨタ・ガズーレーシングに移籍した勝田範彦のコ・ドライバーに抜擢され、その年に自身初となる全日本チャンピオンに。今年も、勝田とともにタイトルを狙う。

JN-1 Class Driver
福永修
Osamu FUKUNAGA 京都府

2023年参戦車両▶シュコダ・ファビア・ラリー2 Evo
2023年ランキング▶JN-1クラス３位

1998年に全日本デビューを果たし、21年にFIA公認車両のシュコダ・ファビアR5を投入。21年はシリーズ２位、22年と23年はシリーズ３位に食い込む。近年は海外ラリーにも精力的に出場し、活動の場を広げる。今シーズンは23年からドライブするファビア・ラリー2 Evoでさらなる上位を狙う。

JN-1 Class Co-Driver
齊田美早子
Misako SAIDA 京都府

2023年の主なドライバー▶福永修
2023年ランキング▶JN-1クラス３位

全日本デビューは2016年。17年から福永修のコ・ドライバーを務め、今年で８シーズン目を迎える。とことん明るく気概あふれる性格は、全日本はもちろん、海外でも人気。動画サイトでも人気爆発中だ。今シーズンも、福永とともに最上位クラスのシリーズチャンピオンを目指し奮闘する。

JN-1 Class Driver
鎌田卓麻
Takuma KAMADA 北海道

2023年参戦車両▶スバルWRX STI
2023年ランキング▶JN-1クラス４位

若手時代に、APRCなど海外を舞台にラリー修行を重ね、2000年から本格的に全日本を転戦。14年にはスバルBRZで全日本ラリーとダートトライアルでダブルタイトルを達成する。23年は開幕戦の嬬恋で、20年以来の全日本ラリー優勝。今年はWRX STIベースのJP4車両でシリーズを戦う。

JN-1 Class Co-Driver
松本優一
Yuichi MATSUMOTO 群馬県

2023年の主なドライバー▶鎌田卓麻
2023年ランキング▶JN-1クラス４位

サーキットレースで活躍するレーシングドライバーを叔父に持ち、両親もラリーの選手やオフィシャルで活躍するというモータースポーツに恵まれた環境で育つ。2016年に全日本ラリーデビュー。20年から鎌田卓麻とコンビを組み、今年は鎌田とともにJP4車両で、FIA公認車両との真っ向勝負に挑む。

JN-1 Class Driver
新井敏弘
Toshihiro ARAI 群馬県

2023年参戦車両▶スバルWRX S4
2023年ランキング▶JN-1クラス５位

1997年に全日本タイトルを獲得後、98年から2013年にかけて、WRCやPWRC、IRCなど海外ラリーで活躍。05年と07年にPWRCで世界タイトルを獲得した。14年に全日本に復帰し、以降タイトルを３回獲得。今年は昨年後半から投入したスバルWRX S4ベースのJP4車両でタイトル奪還に挑む。

JN-1 Class Co-Driver
保井隆宏
Takahiro YASUI 神奈川県

2023年の主なドライバー▶新井敏弘
2023年ランキング▶JN-1クラス５位

2006年に全日本ラリーにデビュー後、数々のドライバーとコンビを組む。国内でも数少ないプロのコ・ドライバー。18年には炭山裕矢と組んでアジア・パシフィックラリー選手権で総合王者に。若手育成にも定評があり、今季はJN-2クラスでラリー初挑戦のKANTAの相棒を務める。

JN-1 Class Driver
新井大輝
Hiroki ARAI 群馬県

2023年参戦車両▶プジョー208ラリー４
2023年ランキング▶JN-1クラス６位

2015年から18年までフィンランドでラリー修行、19年から全日本ラリーにシリーズ参戦を開始。20年にJN-1クラスでタイトルを獲得する。23年は2WDのプジョー208ラリー４でJN-1クラスを戦い、ライバルと互角に渡り合った。今季は4WDのシュコダ・ファビアR5で自身２回目のタイトルを狙う。

JN-1 Class Co-Driver
金岡基成
Motonari KANEOKA 千葉県

2023年の主なドライバー▶新井大輝
2023年ランキング▶JN-1クラス７位

群馬県や長野県のラリーシリーズを舞台に活躍するドライバー。2023年の全日本ラリー第２戦で新井大輝のコ・ドライバーに抜擢され、JN-1クラス４位に入賞。第３戦では３位表彰台、第８戦で４位に入賞し、シリーズ６位を獲得する。今シーズンも新井大輝のコ・ドライバーとしてJN-1クラスを戦う。

JN-1 Class Driver
眞貝知志
Tomoyuki SHINKAI 愛知県

2023年参戦車両▶トヨタGRヤリスGR4ラリーDAT
2023年ランキング▶JN-1クラス８位

2007年に全日本デビュー、12年に当時のJN-3クラスで全日本初タイトルを獲得。18年にトヨタ・ガズーレーシングのドライバーに抜擢され、19年に自身２回目のチャンピオンを獲得する。今シーズンは、23年に投入したAT車両のトヨタGRヤリスGR4ラリーDATで、さらなるシリーズ上位を狙う。

JN-1 Class Co-Driver
竹下紀子
Noriko TAKESHITA 北海道

2023年の主なドライバー▶柳澤宏至
2023年ランキング▶JN-1クラス８位

全日本ラリー選手権のみならず、かつてはAPRCなど国際格式のラリーにも海外の選手とコンビを組んで参戦していた経験豊富なコ・ドライバー。近年では地元北海道でラリーセミナーの講師を務めるなど、若手選手の育成・サポートにも積極的に取り組んでいる。

JRC Driver / Co-Driver Profile

［選手名鑑］ *各クラスの表記は2023年度の区分のもの

Top Competitors

JN-2 Class Driver 三枝聖弥
Seiya MIEDA 岐阜県

2023年参戦車両▸スバルWRX STI
2023年ランキング▸JN-2クラス2位

2019年から全日本ダートトライアルに参戦し、22歳の20年にラリーに転向。22年から全日本ラリーにシリーズ参戦を開始し、5年目のシーズンを迎える。23年は、スバルWRX STIを駆りシリーズ2位を獲得。今シーズンは、悲願の全日本初優勝とともにタイトル獲得を狙う。

JN-2 Class Co-Driver 船木一祥
Kazuyoshi FUNAKI 愛知県

2023年の主なドライバー▸三枝聖弥
2023年ランキング▸JN-2クラス2位

中部・近畿ラリー選手権で活躍する一方で、全日本ラリーには2000年から参戦する、豊富なキャリアを誇るコ・ドライバー。これまでに様々なドライバーと組み、10年には全日本タイトルも獲得。23年から三枝聖弥のコ・ドライバーを務め、若手ドライバーを助手席からサポートする。

JN-2 Class Driver 山田啓介
Keisuke YAMADA 愛知県

2023年参戦車両▸トヨタGRヤリス
2023年ランキング▸JN-2クラス3位

ラリー歴4年目の新鋭ドライバー。2022年に全日本ラリーJN-3クラスに参戦し、2戦目の第2戦で全日本初優勝を遂げるほか、この年に2勝を挙げる活躍をみせた。23年はJN-2クラスに出場し、第5戦で優勝した。今シーズンはMORIZO Challenge Cupにもエントリーし、初代王者を狙う。

JN-2 Class Co-Driver 前川冨哉
Tomiya MAEKAWA 東京都

2023年の主なドライバー▸川名賢
2023年ランキング▸JN-2クラス3位

学生時代の2012年に群馬ラリーシリーズにドライバーでデビューする一方で、コ・ドライバーとしても活躍。全日本ラリーには23年の第6戦に川名賢のコ・ドライバーとしてJN-2クラスに初出場し、第7戦と最終戦で2位に入賞。今シーズンは最上佳樹とともに、MORIZO Challenge Cupを戦う。

JN-3 Class Driver 曽根崇仁
Takahito SONE 山口県

2023年参戦車両▸トヨタGR86
2023年ランキング▸JN-3クラス2位

1995年に全日本ラリーに初出場、参戦30年目を迎えるベテランドライバー。2016年と17年にトヨタ86で当時のJN-4クラスを連覇。20年にも自身3回目となる全日本チャンピオンとなった。23年はJN-3クラスでシリーズ2位に食い込んでおり、今シーズンは4年ぶりのタイトル奪還を狙う。

JN-3 Class Co-Driver 漆戸あゆみ
Ayumi URUSHIDO 長野県

2023年の主なドライバー▸上原淳
20223年ランキング▸JN-3クラス2位

2002年に全日本ラリーにデビューして以来、数多くのドライバーとコンビを組んできた、経験豊富なコ・ドライバー。近年は上原淳のコ・ドライバーとしてJN-3クラスに出場し、23年は開幕戦嬬恋で優勝。第7戦カムイで3位、第8戦北海道で4位に入賞し、シリーズ2位を獲得した。

JN-3 Class Driver 上原淳
Jun UEHARA 埼玉県

2023年参戦車両▸スバルBRZ
2023年ランキング▸JN-3クラス3位

1994年に全日本デビューを果たし、99年から2006年にかけて2輪駆動部門で活躍。09年から再び全日本のフィールドに戻ってきたベテランドライバー。09年に標傍診療科名を「救急科」とした川越救急クリニックを開業。地域密着型ER（救急総合診療科）を行い、TV解説などでもおなじみ。

JN-3 Class Co-Driver 丸山晃助
Kousuke MARUYAMA 広島県

2023年の主なドライバー▸山口清司
2023年ランキング▸JN-3クラス3位

2005年の2輪駆動部門第5戦に、大学の先輩と後輩の間柄である山口清司と全日本デビュー。その後も20年から22年にかけてスポットで山口のコ・ドライバーを務め、23年は5戦に出場し、第2戦3位、第3戦2位、第4戦3位に入賞する活躍をみせ、JN-3クラスシリーズ3位に入賞した。

JN-4 Class Driver 西川真太郎
Shintaro NISHIKAWA 埼玉県

2023年参戦車両▸スズキ・スイフトスポーツ
2023年ランキング▸JN-4クラス2位

30歳からラリーを始め、5年後の2017年に東日本ラリー選手権でチャンピオンに。18年から全日本ラリーにステップアップし、21年と22年にJN-4クラスを連覇した遅咲きのヒーロー。23年はタイトル争いが最終戦までもつれ、惜しくも防衛ならず。今シーズンはタイトル奪還を誓う。

JN-4 Class Co-Driver 本橋貴司
Takashi MOTOHASHI 千葉県

2023年の主なドライバー▸西川真太郎
2023年ランキング▸JN-4クラス2位

2004年の全日本ラリー2輪駆動部門に、ドライバーとして出場。15年からコ・ドライバーとして出場するようになり、18年から西川真太郎のコ・ドライバーとしてシリーズにレギュラー参戦する。21年と22年にJN-4クラスを連覇。今シーズンは西川とともにタイトル奪還を目指す。

JN-4 Class Driver 香川秀樹
Hideki KAGAWA 愛知県

2023年参戦車両▸ホンダ・シビック
2023年ランキング▸JN-4クラス3位

2007年の第6戦で全日本ラリーデビュー。10年にはホンダ・インテグラ・タイプRを駆り、全日本初タイトルを獲得する。グラベルラリーに強く、23年は第6戦カムイで優勝、第7戦北海道で2位と、グラベルラウンド2戦で高ポイントを獲得し、JN-4クラスシリーズ3位に食い込む健闘をみせた。

JN-4 Class Co-Driver 松浦俊朗
Toshirou MATSUURA 三重県

2023年の主なドライバー▸香川秀樹
2023年ランキング▸JN-4クラス3位

全日本ラリーのデビュー戦は1998年というベテラン。2004年から12年までは全日本の活動を休止していたが、13年に復帰。18年から香川秀樹のコ・ドライバーを務めるほか、JN-5クラスに出場するRina Itoのコ・ドライバーを務めるなど、クラスを越えてマルチに活躍する。

JN-5 Class Driver 大倉聡
Satoshi OKURA 愛知県

2023年参戦車両▸トヨタGRヤリスRS
2023年ランキング▸JN-5クラス2位

2006年から全日本ラリーに参戦開始。15年からTOYOTA GAZOO Racingチーム、18年からはアイシンラリーチームより参戦し、全日本ラリーにCVT車を投入。19年にはJN-6クラスのタイトルを獲得した。今季も23年に引き続き、熟成が進んだGRヤリスRSを駆り、JN-5クラス王座を狙う。

JN-5 Class Co-Driver 山田真記子
Makiko YAMADA 滋賀県

2023年の主なドライバー▸松倉拓郎
2023年ランキング▸JN-5クラス2位

2008年の全日本ラリー第5戦で全日本デビュー。11年には山口貴利とのコンビで全日本初優勝を果たし、シリーズ3勝を挙げた12年は全日本初タイトルを獲得する。松倉拓郎と組んだ23年は、1戦欠場した分のポイントが響き、シリーズ2位に留まる。今シーズンは自身2回目のタイトルを目指す。

JN-5 Class Driver 小川剛
Tsuyoshi OGAWA 佐賀県

2023年参戦車両▸トヨタ・ヤリス
2023年ランキング▸JN-5クラス3位

すでにベテランの域に達するドライバーだが、全日本ラリーデビューは2016年という大器晩成型。16年にシリーズ3位に入り、17年には全日本初優勝を飾った。長年、ホンダ・フィットで全日本を戦っていたが、22年にトヨタ・ヤリスにスイッチ、23年はJN-5クラスシリーズ3位に入賞した。

JN-5 Class Co-Driver 有川大輔
Daisuke ARIKAWA 佐賀県

2023年の主なドライバー▸河本拓哉
2023年ランキング▸JN-5クラス3位

九州ラリー選手権を軸に参戦する有川大輔は、23年の全日本ラリー第4戦久万高原で、河本拓哉のコ・ドライバーとして全日本デビュー。ここでいきなり全日本初優勝を飾ったシンデレラボーイだ。その後も河本とのコンビで4戦に出場し、JN-5クラスシリーズ3位を獲得した。

JN-6 Class Driver 海老原孝敬
Takayoshi EBIHARA 千葉県

2023年参戦車両▸ホンダ・フィット
2023年ランキング▸JN-6クラス2位

JAF東日本ラリー選手権など関東のラリーで活躍、2013年の全日本ラリー第3戦で全日本デビュー。それから7年のブランクを経て、20年からJN-6クラスにレギュラー参戦を開始し、22年に6勝を挙げて全日本タイトルを獲得した。24年もJN-6クラスで自身2回目となるタイトルを狙う。

JN-6 Class Co-Driver 山村浩三
Kouzou YAMAMURA 長野県

2023年の主なドライバー▸中西昌人
2023年ランキング▸JN-6クラス2位

かつてのTRDラリーチャレンジや、中部・近畿ラリー選手権などを舞台に活躍するベテランのコ・ドライバー。2023年は、中西昌人のコ・ドライバーとして全日本ラリーに初出場。第7戦北海道での2位入賞を含め出場した7戦すべてでシリーズポイントを獲得し、JN-6クラスシリーズ2位を得た。

JN-6 Class Driver 清水和夫
Kazuo SHIMIZU 東京都

2023年参戦車両▸トヨタ・ヤリス
2023年ランキング▸JN-6クラス3位

全日本ラリー創成期である1980年から85年まで、チームSUBARUのワークスドライバーとして活躍。83年のDCCSでは総合優勝も飾っている。その後、レーシングドライバーに転身したが、2021年から全日本ラリーに本格的に復帰。23年はヤリスCVTでJN-6クラスシリーズ3位に食い込んだ。

JN-6 Class Co-Driver 蔭山恵
Satoshi KAGEYAMA 千葉県

2023年の主なドライバー▸海老原孝敬
2023年ランキング▸JN-6クラス3位

地区戦からTGRラリーチャレンジ、全日本と、レベルを問わず、全国各地で開催されるラリーに助っ人コ・ドライバーとして出没。海老原孝敬と組んだ2022年はJN-6クラス王者となった。23年も海老原孝敬のコ・ドライバーとして4戦に出場し、シリーズ2位を獲得した。

Rising Driver 大竹直生
Nao OTAKE 東京都

TGR WRCチャレンジプログラム2期生
2021年全日本ラリー選手権JN-3クラスチャンピオン

17歳でヌタハラ・ラリースクールのジュニアチームに抜擢され、18歳から本格的にラリーを開始。21年に全日本ラリーJN-3クラス王者となった。22年からTOYOTA GAZOO Racing WRCチャレンジプログラム2期生としてフィンランドでラリー修行。今季はMORIZO Challenge Cupに挑む。

Rising Driver 河本拓哉
Takuya KOUMOTO 広島県

2023年参戦車両▸マツダ・デミオ
2023年ランキング▸JN-5クラス4位

2021年に九州のベテランドライバー・岡田孝一のコ・ドライバーとして全日本ラリーにシリーズ参戦。23年はドライバーとしてJN-5クラスにシリーズ参戦し、ドライバーデビューの3戦目となる第4戦久万高原で、全日本初優勝を遂げた。今シーズンもJN-5クラスに出場する、期待の新鋭ドライバーだ。

Rising Driver 兼松由奈
Yuuna KANEMATSU 岐阜県

2023年参戦車両▸スズキ・スイフトスポーツ
2023年ランキング▸JN-4クラス5位

CUSCO RACINGの女性ドライバーオーディションで選抜され、2020年の第5戦で全日本デビュー。そのデビュー戦でJN-6クラス2位に入賞した。23年は新体制でJN-4クラスに出場。今シーズンは自らチームを立ち上げ、引き続きJN-4クラスで上位を目指す。

Rising Driver 塙将司
Masashi HANAWA 京都府

2023年参戦車両▸トヨタ・ヴィッツ
2023年ランキング▸中部・近畿ラリー選手権DE-5クラス2位

2023年のJAF中部・近畿ラリー選手権DE-5クラスに出場し、優勝2回、2位1回、リタイア3回でシリーズ2位に食い込んだイチかバチかのファイター系ドライバー。今シーズンはトヨタGRヤリスでJN-2クラスで全日本デビューに挑む。元プロボクサーという異色の経歴を持つ期待の若手ドライバー。

2023 Point Ranking

［ポイントランキング］ ※JAF公式ウェブサイトより

●得点について

1～8位までの選手に下記の表のポイントが与えられます。得点係数がかかるラリーでは、この表の得点に係数をかけて、小数点第１位までを換算した値が与えられます。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
得点	20点	15点	12点	10点	8点	6点	4点	3点

●有効得点について

新型コロナウイルスの感染流行の影響が収まりつつあり、2023年は予定されていた全８戦のうち７戦が、観客を入れて開催。JAF全日本ラリー選手権規定では、成立した競技会が年間７戦以上の場合の有効戦数を６戦と定めていることから、各選手のベスト６戦分の得点合計が有効得点となり、各クラスの順位が認定されました。

●得点係数について

成立したSSの総距離および路面に従い、獲得点数に1.0倍から1.5倍までの係数がかけられます。小数点以下の得点もすべて有効です。2023年はグラベル２戦、ターマック６戦（内１戦スノー）が開催され、いずれもSS総距離が長いイベントでの獲得ポイントが選手権争いにも影響を与え、ランキング上位を狙ううえでも得点係数が重要となりました。

●レグ別得点について

全日本ラリー選手権は、基本的に１日で走行するアイテナリーを「レグ」と呼び、各レグ単独の順位別に１位＝３点、２位＝２点、３位＝１点のレグポイントが与えられますが、2019年からは、レグポイントの与えられる対象がレグ２以降と規定が変更になったことから、レグポイントがシリーズ順位に与える影響は少なくなってきています。このレグポイントには得点係数はかかりません。

※ポイント表のクラスは2023年の区分、項目は上からラウンド／開催場所／路面（Ｔ＝ターマック、Ｇ＝グラベル）、係数を表します。

JN-1 class

FIA／ASN公認車両、JAF公認車両のJP4車両が対象となるJN-1クラス。22年に引き続きシュコダ・ファビアR5で戦う22年度王者のヘイキ・コバライネンに、トヨタGRヤリスJP4-ラリー２で参戦する勝田範彦、ファビア・ラリー２ Evoを投入した福永修、スバルWRX S4ベースのJP-4車両を投入した新井敏弘などが登場し、注目を集めた。タイトル争いは、ターマックで揺るぎない速さを見せたコバライネンが、圧巻の強さで連覇を果たした。

▶▶ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	Heikki Kovalainen		23	23	23	27		19	22	137
2	勝田範彦			17	17		27	24.5	16	101.5
3	福永修	17	16		10	20	20		15	98
4	鎌田卓麻	23	14	10	13					60
5	新井敏弘	13	6	9	8			15	8	59
6	新井大輝		10	12		15.4			10	47.4
7	Jari-Matti Latvala							33		33
8	眞貝知志		8	6		9.6			6	29.6
9	金岡裕雄					7.2	9.6	12		28.8
10	松岡孝典		3		4		12		3	22
11	柳澤宏至			4		12			4	20
12	今井聡			3			15.4			18.4
13	牧野タイソン	10								10
14	小濱勇希		4		6					10

▶▶コ・ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	北川紗衣	10	23	23	23	27		19	22	137
2	木村裕介			17	17		27	24.5	16	101.5
3	齊田美早子	17	16		10	20	20		15	98
4	松本優一	23	14	10	13					60
5	保井隆宏		6	9	8			15	8	46
6	Juho Hanninen							33		33
7	金岡基成		10	12					10	32
8	竹下紀子		4	4	6	12			4	30
9	安藤裕一		8	6		9.6			6	29.6
10	高橋芙悠			3			15.4			18.4
11	朴木博則					7.2	9.6			16.8
12	毛利太哉					15.4				15.4
13	小藤桂一	13								13
14	Flavien Vidal							12		12
14	坂口慎一						12			12
16	北田稔		3		4				3	10

JN-2 class

2500cc超のRJ車両、RRN車両が対象となるJN-2クラスは、強豪の奴田原文雄（トヨタGRヤリス）が、JN-1クラスから移籍して貫禄の強さを披露。開幕戦福恋では堀田信（GRヤリス）、第４戦久万高原で若手成長株の山田啓介（GRヤリス）が勝利を飾るなど奮闘を見せたが、シリーズ８戦中６勝を挙げた奴田原が、ライバル勢の追従を許さずタイトルを獲得した。このほか、スバルWRX STIの三枝聖弥、GRヤリスの川名賢などが各戦で活躍を見せた。

▶▶ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	奴田原文雄	17	23	23	17	27	27	31	23	154
2	三枝聖弥			11	10	15.4	13	18	11	78.4
3	山田啓介		17	17	23	20				77
4	川名賢						7.2	25.5	17	49.7
5	徳尾慶太郎			8	8	12		17		45
6	横尾芳則			12	13				12	37
7	堀田信	23						12		35
8	小泉敏志			6		9.6			8	23.6
9	箕貝知志						20			20
10	HYOMA		10			7.2				17.2
11	石川昌平			4			4.8		6	14.8
12	長江修平						14.4			14.4
13	野河家宏一	13								13
13	村田康介		13							13
15	中山透	10								10
16	関根正人						9.6			9.6
17	宮本昌彦							9		9
18	マクリン大地						3.6			3.6

▶▶コ・ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	東駿吾	17	23	23	17	27	27	31	23	154
2	船木一祥			11		15.4	13	18	11	68.4
3	前川富哉						7.2	25.5	17	49.7
4	山本祐也			17	23					40
5	藤井俊樹		17			20				37
6	石田一輝				8	12		17		37
7	河西晴雄	23						12		35
8	安藤裕一						20			20
9	伊藤克己		10			7.2				17.2
10	清水昭一			6		9.6				15.6
11	大倉瞳			4			4.8		6	14.8
12	中岡和好						14.4			14.4
13	新井正和	13								13
13	梅本まどか		13							13
13	木村悟士				13					13
16	井手上達也			12						12
16	穴井謙志郎								12	12
18	多比羅二三男	10								10
18	鮫島大湖				10					10
20	松川萌子						9.6			9.6
21	鈴木眞由美							9		9
22	枝光展義			8						8
22	加勢直毅								8	8
24	大橋正典						3.6			3.6

JN-3 class

開幕戦は唯一参戦した上原淳（トヨタ86）が勝利をマーク。第２戦から登場した山本悠太（トヨタGR86）は、シーズンを通して安定した強さで勝利を重ね、第６戦カムイでタイトルを争う曽根崇仁（GR86）がリタイアした時点で、山本の４年ぶりとなるタイトル奪還が確定した。第５戦丹後では、スポット参戦の竹内源樹（スバルBRZ）が優勝。最終戦ハイランドでは、長﨑雅志（GR86）が初日から首位に立ちシーズン初勝利を飾った。

▶▶ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	山本悠太		23	23	23	20	27	33	15	149
2	曽根崇仁		10	10	17	12		20	10	79
3	上原淳	23	8	8	8		15.4	15		77.4
4	山口清司		13	16	12	7.2	12			60.2
5	長﨑雅志			2	11	15.4			23	51.4
6	加納武彦						20	23.5		43.5
7	鈴木尚			12		9.6			9	30.6
8	竹内源樹					27				27
9	上坂英正		17							17
10	若井貴之		6			4.8			6	16.8
11	貝原聖也								14	14
12	カルロス中村							12		12
13	山田裕一						9.6			9.6
14	内田園美		4			3.6				7.6

▶▶コ・ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	立久井和子		23	23	23	20	27	33	15	149
2	漆戸あゆみ	23	8	8	8		15.4	15		77.4
3	丸山晃助		13	16	12	7.2	12			60.2
4	大矢啓太			2	11	15.4			23	51.4
5	横手聡志						20	23.5		43.5
6	竹原静香			10				20		30
7	木村悟士					27				27
8	島津雅彦			12		9.6				21.6
9	石田一輝		10						10	20
10	山下恭平		17							17
10	澤田耕一				17					17
12	藪本啓介		6			4.8			6	16.8
13	西﨑佳代子								14	14
14	井上草汰					12				12
14	坂本和久							12		12
16	南出司						9.6			9.6
17	遠藤彰								9	9
18	石垣晴恵		4			3.6				7.6

JN-4 class

タイトル３連覇を狙う西川真太郎（スズキ・スイフトスポーツ）が開幕戦を勝利で飾るが、第２戦では全日本に復帰した内藤学武（スイフトスポーツ）がいきなり勝利をマーク。第４戦久万高原では内藤がリタイアを喫するが、第６戦カムイでは西川がリタイア。係数が高い第７戦北海道を内藤が圧勝したことで、タイトル争いは最終戦までもつれ込み、最終戦ハイランドの最終ステージで逆転した内藤が、自身初のタイトルを獲得した。

▶▶ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	内藤学武		23			21	20	33	23	120
2	西川真太郎	23	13	20	17	26		15	17	118
3	香川秀樹						27	24.5		51.5
4	東隆弥			6	23	15.4				44.4
5	兼松由奈		8	3	12	7.2			11	41.2
6	岡田孝一		15	3	11	9.6				38.6
7	鮫島大湖			10			9.6	12	6	37.6
8	黒原康仁			17		12			8	37
9	筒井克彦	17	6	4.0	8.0				6	35
10	前田宜重		12	12						24
11	奥村大地					4.8	7.2		12	24
12	井之上優							18		18
13	須藤浩志						15.4	1		16.4
14	山口貴利						12			12
15	古川寛			9						9
16	鈴木正人							9		9
17	佐藤喜一	1	4			3.6				8.6

▶▶コ・ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	大高徹也		23			21	20	33	23	120
2	本橋貴司	23	13	20	17	26		15	17	118
3	松浦俊朗						27	24.5		51.5
4	槻島もも		8	3	12	7.2			11	41.2
5	石田裕一		15	3	11	9.6				38.6
6	船木佐知子			10			9.6	12	6	37.6
7	松葉謙介			17		12			8	37
8	古川智崇	17	6	4	8					35
9	藤澤進			6	23					29
10	勝瀬知冬		12	12						24
11	立久井大輝							18		18
12	新井正和						15.4	1		16.4
13	白石認					15.4				15.4
14	山田真記子						12			12
14	山本祐也								12	12
16	波積美穂							9		9
16	内藤達孝			9						9
18	河西晴雄		4			3.6				7.6
19	Jacky						7.2			7.2
20	大橋正典					4.8				4.8
21	増田徹	1								1

JN-5 class

シーズンを通して６人の勝者が誕生した波乱のJN-5クラス。最初にシーズン２勝目をマークした大倉聡（トヨタGRヤリスRS）がシリーズを牽引するが、ターマックラリーはトヨタ・ヤリスで参戦した松倉拓郎が、マツダ・デミオで参戦した第６戦カムイ、第７戦北海道とグラベル２戦を制覇。北海道で大倉がリタイアに終わったことで、選手権規定により上位得点の獲得回数が多い松倉の全日本初タイトルが確定した。

▶▶ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	松倉拓郎			17		21	27	33	17	115
2	大倉聡		6	23		26	20		23	98
3	小川剛			13	18		12	23.5	11	77.5
4	河本拓哉			6	22	7.2	9.6		12	56.8
5	鎌野賢志		15	4		9.6	3.6	14	8	54.2
6	木内秀柾		9		13	12		6		40
7	吉原將大		3	10	6		15.4			34.4
8	富本諒		22	8					3	33
9	鶴岡雄次	23				4.8				27.8
10	原口真						7.2	18		25.2
11	島根剛		10		10					20
12	平川真子			3	4	3.6			6	16.6
13	杉本延重					15.4				15.4
14	三苫和義							15		15
15	松原久						4.8	9		13.8
16	吉田知史		12							12
17	本名修也				8					8
18	山中健志郎							4.5		4.5
19	石黒一暢								4	4

▶▶コ・ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	豊田耕司		6	23		26	20		23	98
2	山田真記子			17		21		33	17	88
3	有川大輔				22	7.2	9.6		12	50.8
4	槻山剛			13	18		12			43
5	小藤桂一		3	10	6		15.4			34.4
6	里中謙太		22	8					3	33
7	藤田めぐみ		9	3	4	3.6			11	30.6
8	山岸典将	23				4.8				27.8
9	尼子祥一						27			27
10	亀森隆志						7.2	18		25.2
11	坂井智幸		15			9.6				24.6
12	松本優一							23.5		23.5
13	藤山恵							14	8	22
14	濱田翔多		10		10					20
15	馬瀬耕平					15.4				15.4
16	遠藤彰							15		15
17	和田義明						4.8	9		13.8
18	島津雅彦				13					13
19	高田幸治		12							12
19	加瀬直毅					12				12
21	湊比呂美				8					8
22	佐々木裕一								6	6
22	永渕直大			6						6
22	山本磨美							6		6
25	鷹巣恵鈴							4.5		4.5
26	秋元洋輝			4						4
26	田中直哉								4	4
28	明治慎太郎						3.6			3.6

JN-6 class

JN-5クラス王者の天野智之がトヨタ・アクアで挑んだJN-6クラス。ハイブリッド車でも安定した強さを発揮した天野は、中盤からは、JN-5クラス相当のタイムを視野に入れるなどアクアの熟成に務めながら連勝を重ね、シリーズ全勝を飾った。シリーズ２位は、前年王者の海老原孝敬（ホンダ・フィット）が堅実に２位フィニッシュを並べ獲得。シリーズ３位には、全日本ラリー復帰の清水和夫（トヨタ・ヤリスHEV）が入った。

▶▶ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	天野智之	23	22	23	23	27	27	33	23	156
2	海老原孝敬	17	18	17	17	20			17	106
3	清水和夫		13	13	13	15.4		19	13	86.4
4	中西昌人		10	8	8	12	12	24.5	8	74.5
5	鷲尾俊一			10	6		16.4	15	6	53.4
6	福島賢大郎		8		10		19		4	41
7	坂地宏之					9.6	9.6			19.2
8	奥田道裕		6	6	4				3	19
9	吉原將大								10	10

▶▶コ・ドライバー

順位	氏名	Rd.1 福恋 (T)1.0	Rd.2 新城 (T)1.0	Rd.3 唐津 (T)1.0	Rd.4 久万高原 (T)1.0	Rd.5 丹後 (T)1.2	Rd.6 カムイ (G)1.2	Rd.7 北海道 (G)1.5	Rd.8 ハイランド (T)1.0	有効得点（ベスト6戦）
1	井上裕紀子	23	22	23	23	27	27	33	23	156
2	山村浩三		10	8	8	12	12	24.5	8	74.5
3	藤山恵		18	17	17	21				72
4	山本磨美		13	13	13	15.4			13	67.4
5	鈴木隆司						16.4	15	6	37.4
6	原田晃一				10		19			29
7	古川智崇							19		19
8	阿部琢哉		6	6	4				3	19
9	遠藤彰	17								17
9	河西晴雄								17	17
11	田代啓之			10	6					16
12	新井正和		8						4	12
13	小藤桂一								10	10
14	関本貴史					9.6				9.6
14	奥村久継						9.6			9.6

JRCAとは？

総合理念 モータースポーツとしてのラリーの振興

重点活動項目

1. ラリーの認知向上を目指す
2. スポーツとしての質とレベルの高いラリーを目指す
3. 地域、社会に貢献できるラリーを目指す

JRCA（ジェイアールシーエー）は、日本でのラリーの振興を目的として2000年７月に設立されました。以来、世界標準であるSSラリーへの移行、救急体制や安全に関する啓蒙、ギャラリーステージ設置の働きかけやプロモーション活動など、多くの課題に取り組んでいます。

また、2018年度からJAF加盟団体として登録、主催者や選手、メディア、スポンサーと連携し、ラリーの振興と発展への努力を常に続けています。

さらに、23年からは、JAFからの依頼を受け全日本ラリー選手権の各ラウンドに技術アドバイザーの派遣なども行っています。

JRCAの主な活動内容

JRCAホームページの運営

JRCAホームページでは、全日本ラリー選手権に関する様々な情報を随時更新しています。ラリーレポートやリザルト、写真や動画の配信のほか、ラリービギナーに向けた基本的なルールの解説、入会の申し込みも行えます。

ダイジェスト動画の配信

主催者やチーム、選手にご協力いただき、各ラウンドのダイジェスト動画を制作、無料公開しています。インカー映像、空撮など、様々な角度から全日本ラリー選手権の映像をお楽しみいただけます。

http://www.jrca.gr.jp/video

技術アドバイザーの派遣

JAFからの依頼を受け、車両規定の解釈を一定の水準に揃えることを目的として、株式会社トヨタカスタマイジング＆ディベロップメント様のご協力もいただき、各戦に技術アドバイザーを派遣しています。

JRCAガイドブックの発行

年に一回、本誌JRCAガイドブックを発行しています。国内ラリーを楽しむうえでの様々な情報や各ラウンドの解説など、ラリーを知りたい方々に分かりやすいガイドブックとなっています。

救急医療キットの貸し出し

ラリー競技開催中には、選手のみならず、ギャラリーやオフィシャルにも思わぬ事故や怪我が生じてしまうことがあります。JRCAではこうしたアクシデントに備え、主催者への救急医療キットの貸し出しを行っています。

クラス区分ステッカーの作製

ギャラリーやオフィシャル、メディアの方々がどのクラスのマシンなのかが判別しやすいように、参加車両に貼り付けるクラスステッカーを作製して、配布を行っています。

SS周辺の気象情報やSSタイム速報を配信

株式会社ウェザーニューズの気象ウェブサービス『MiCATA』を活用し、SS周辺の降雨量や気温など、現地の気象情報を配信しているほか、上位選手のSSタイム速報をメールで配信しています。

JAFへの提案や主催者との意見交換

ラリーの競技規則や車両規則、ルールに関して主催者およびJAFと意見交換や協議をし、選手権をより魅力的なものにするための活動を行っています。

JRCAアワードの選出

日本のラリー振興と発展に貢献した人物や団体を「JRCAアワード」として選出しています。2023年は、初タイトルを獲得したJN-4クラスの内藤学武選手（左）、JN-5クラスの松倉拓郎選手（右）が受賞しました。

日本のラリーを元気にする JRCA会員を募集中

日本のラリーを盛り上げていくためには、できるだけ多くの方々のご協力が欠かせません。JRCAの趣旨にご賛同いただける方は、ぜひ入会をお願いいたします。

会員サービス
- SS速報メール配信
- JRCAガイドブックの送付(年１回)
- 結果速報とリザルトの配信

お問い合わせ

JRCAお問い合わせフォーム	http://www.jrca.gr.jp/contact
メールアドレス	info@jrca.gr.jp
詳しくはJRCAのホームページまで	http://www.jrca.gr.jp

年会費
- 団体・法人：10,000円(一口)
- 個人会員：5,000円(一口)

入会方法

JRCAウェブサイトの「JRCA入会のご案内」からお申込みください。
http://www.jrca.gr.jp/join